

CD-JSQC-Std 31-001 「小集団改善活動の指針」に対するコメントと対応

番号	頁	行	コメント内容(各250字以内)	提 案(各250字以内)	採否	対応
1			なぜ今回、指針としてまとめる必要があるのか動機が理解できません。		○	「開発・制定提案書」の文章を序文の第3段落に追記しました。
2	4	1	JISQ9023によれば、小集団活動とは「第一線の職場で働く人々による、製品又はプロセスの継続的改善を行う小グループ」とあります。したがって、小集団活動＝改善を行う活動であり、JISを考えた時、小集団改善活動にすると意味が変わると思います。 また、生きがいのある明るい職場をつくる、個人の成長を促す、チームワークを醸成することなどが、小集団活動の特長としてありますが、これも改善には違いありませんが、改善の本来の意味を考えると、人に対して“改善”という表現は、必ずしも適当とは思えません(成長、進歩、向上などが適当な言葉だと思います)。	小集団活動の指針	×	QCサークル本部でも、従来のQCサークル活動よりも広い活動という意味で「小集団改善活動」という名称を使用しています。 小集団による改善活動という意味で「小集団改善活動」という用語を使用しています。
3			本来、QCサークルとは小集団活動の名称だったはずですが、今回、スタッフ部門の活動名称を小集団改善活動、現場の活動名称をQCサークルに分けること自体、意味のないことだと思っています。どうして一般的な“小集団活動”で、なぜ駄目なのかが理解できません。	QCサークル及び小集団改善活動を小集団活動の名称で統一する。	×	QCサークル本部でも、従来のQCサークル活動よりも広い活動という意味で「小集団改善活動」という名称を使用しています。 時限型の活動を「チーム改善活動」、職場型・継続型の活動を「QCサークル」、これらすべてを含むものを「小集団改善活動」と呼んでいます。
4	6	3	「問題と課題を区別せずに、課題達成を含め問題解決と呼ぶことがある。」についてここまでで「問題」と「課題」について定義していないので、いきなり「区別しない」といっても理解しにくい。(JSQC-Std 00-001とは別に「問題＝あるべき・ありたい姿とのギャップ」「課題＝問題に対してやるべきこと」という認識もあるので、なおさらわかりにくいというややこしいところもあるが) 「全ての仕事＝問題解決」という認識も広くあるので、「問題解決と課題達成を区別せず、広く問題解決と呼ぶことがある。」というほうが納得性が高い。	「問題と課題を区別せずに、課題達成を含め問題解決と呼ぶことがある。」→「問題解決と課題達成を区別せずに、広く問題解決と呼ぶことがある。」	×	定義は、JSQC-Std 00-001よりの抜粋となっています。 JSQC-Std 00-001では、「問題」と「課題」が定義されています。用語の定義が規格によって異なるのは好ましくないため、このままとします。
5			個人的には、経営に小集団活動の必要性は理解していますが、今回の指針ではなぜ組織(経営)に小集団活動が必要なかは触れていません。	組織(経営)になぜ小集団活動が必要なのかを説明する項目が必要であると思う。	×	4.1において経営における役割を説明し、4.2～4.4でどのように機能するかを説明しています。
6			小集団活動を実施すると組織が活性化するようになっていますが、なぜ活性化するのが行動科学面から説明する必要があると思いますが、この点については全く触れられていません。	小集団活動を取り入れると組織(経営)が活性化し、組織(経営)に必要な不可欠な活動であることを説明する項目が必要であると思う。	×	4.1において経営における役割を説明し、4.2～4.4でどのように機能するかを説明しています。

7			小集団活動成功の為の重要な点は自主性にあると思いますが、この点は重視されていません。	小集団活動の成功のポイントの一つは、自主性(ただし、放任ではない)であることを説明する必要があります。	×	4.2において改善活動における自律性の重要性を説明し、4.4において能力の向上と組織の活性化における自主性の重要性を説明しています。
8			ISO9001が2015年版として改訂されますが、その変更点として、①一層の顧客重視、②リスクに基づく考え方、③QMSの方針及び目標と組織の戦略との密接な関連付け、④文書類に対する一層の柔軟性が挙げられています。この中で、留意すべきは、②リスクに基づく考え方が明確になったことだと考えます。	これに対して、今回の指針では、一部、リスク分析について記載はされていますが、より一層、この2015年版の内容を踏まえた指針となるべきではないでしょうか？	×	リスクに基づく考え方は「品質保証」で重要になる概念です。
9	7	12	改善とは、標準を作り、標準を育てることが全体的に伝わりにくい。プロセスを良くすることが改善であり、プロセスとは「業務を行う方法(p10で説明)」であるので、プロセスを良くすることは標準を良くすることということを、TQCを熟知している人にはわかるが伝わりにくい。	改善とは、標準を作り、標準を育てる(より良くしていく)ことということを入れる。また「プロセス」の定義を3章の用語と定義に持ってくる。	△	4.2の第3段落に説明を追加しました。また、定義に「プロセス」を追加しました。
10	7	15	革新:組織の外部や組織内の他部門で生み出された新たな固有技術を導入・活用し、プロセス及びシステムの不連続な変更を行う活動。 →固有技術について自部門で生み出された技術の活用も入れるべき →イメージのグラフなしに「不連続な変更」ではわかりにくい不連続な変更というよりも、あるいはそれに加えて、システム的大幅な変更とかこれまでを一変させる価値軸の変更・・・という「今までにない大きな」ニュアンスの表現の方が良いと思う。	革新:組織の外部や組織内の自部門・他部門で生み出された新たな固有技術を導入・活用し、プロセス及びシステムのこれまでの延長にない飛躍的な変更を行う活動。	×	JSQC-std 32-001と同じ定義です。革新=大きな改善という考え方もありますが、ここでは、外部からの固有技術の導入による不連続な変更を革新と呼び、内部における固有技術の発見による改善と区別しています。
11	7	10	原案:“すぐに元にせる”は、typoと思われる。	提案:すぐに元に戻せる	○	
12	8	3	方針管理、日常管理ができていないところから出てくる問題も多い。特に日常管理は標準、管理水準があつての管理であるが、そこまでできていないことが多い。人によりやり方が異なるなど、標準ができていないことに対して標準を自らの手で作っていくというのも重要な改善の要素である。	方針管理・日常管理を通じて明らかとなった問題・課題、あるいは人によりやり方が異なるなど標準化ができていない業務について・・・	×	「人によってやり方が異なる」「標準化ができていない」というのも、問題・課題です。
13	9	14	「異なった知識・技能・見方・考え方・権限などを持った」→全く同じ人などいない。	「共通の目的のために編成された2人以上の集まり」が定義。異なった知識・・・は、複数の人間が集まれば必然的なことであり、小集団の条件ではなく、小集団の効用という表現にする。	×	同質の人が集まっても、機能しないと考えています。
14	10	29	QC的考え方で大切な「標準化」が抜けてる	「標準化」を入れる	△	コメント9参照。

15	11	表1	<p>2.現状の把握 選んだ問題・課題(テーマ)について、事実・データを収集し、傾向・くせを把握する。</p> <p>5.要因の解析 現状の把握で得られた情報を活用しながら、問題・課題とプロセスとの間の因果関係について、仮説の設定と検証を繰り返す</p> <p>注2 ……要因とは原因の候補となるものである。(p.11)</p> <p>→「現状の把握」では傾向、クセを掴んでいるので単なる「把握」を超えた「分析(結果のデータの処理)」行為だと思う。「現状分析」にしたいものである。 →「要因とは原因の候補となるものである」という定義なので、「要因の解析」というのはイメージが湧かない。このステップでは原因を追究するのであるから、結果と要因との対応データから寄与率のもっとも高い要因、すなわち原因を確定することであり、従って、要因だけではなく、要因と結果両方を見なければならぬ。解析＝結果と要因との関係付けをすること であるので「要因の解析」ではなく「解析」が適切であると思う。</p>	<p>「2.現状の把握」→「2.現状の分析」 「5.要因の解析」→「5.解析」</p> <p>* 解析＝結果と要因との関係付けをすること</p>	×	JIS Q 9024およびQCサークルの基本と整合をとっていません。
16	14		<p>4.6.1節で、小集団改善活動を、その活動の形態別で分類されていますが、これはあくまでも手段であって、活動の目的別に分類されたほうが、一般の方には分かり易いと思います。</p>	<p>(例えばですが)活動の主な目的を二つに分類 ①問題の解決(課題の達成を含む)と参画したメンバーの能力向上 ⇒ チーム改善活動 ②メンバーの能力向上と明るい職場づくり ⇒ QCサークル活動</p>	×	<p>目的は4.2～4.4で説明されています。ここでは、5章、6章に分けて説明する2つの代表的な形態を説明しています。</p>
17	16	図3	<p>本図は、QCサークル本部編『新版 QCサークル活動運営の基本』のp.65の図4.1と少々似ているようですが、本図4.1を元に作成されたのであれば、「～をもとに作成」と、出典を明記された方が良くと思います。</p>		△	<p>図3はオリジナル、図6が転載ですので、図6に出典を明記しました。</p>
18	18	2	<p>読み取りにくいので文章再考依頼「チーム改善活動の最上位の目的は、全体最適であり、</p>	<p>…目的は、全体最適に</p>	△	<p>「目的＝全体最適＋顧客・社会のニーズを満たし新たな顧客価値を創造すること」という構造であることがわかりやすいように修正しました。</p>
19	18	2	<p>「…品質保証(顧客価値の創造)…」とありますが、主旨は理解できますが、一般的には理解が難しいと思います。</p>	<p>(例えばですが) 「…お客様(後工程を含む)の期待に応える新たな価値を創造することである。」とする、などです。</p>	△	<p>「顧客・社会のニーズを満たし新たな顧客価値を創造することである」に修正しました。関連して1行下の「品質保証の達成」も「顧客価値の創造」に修正しました。</p>
20	18	3	<p>読み取りにくいので文章再考依頼「…、品質保証(顧客価値の創造)を行うことである」</p>	<p>顧客価値の創造を行うことである</p>	○	<p>コメント19参照。</p>
21	20	11	<p>原案:“解決・達成が図られように”は、typoと思われる。</p>	<p>提案:解決・達成が図られるように</p>	○	

22	20	6	原案：“従来業務”は、推進業務との対の用語と思われる。従来実施してきた業務に加え、推進業務も並行して進める場合は、本来業務と推進業務という対ではどうか？	提案：本来業務または、本来の業務	△	推進業務が「本来業務」でないとして受け取られる危険があるため、「他の業務」としました。
23	23	11	PDCAやシックスシグマで用いられるDMAICなどの単純化された改善の手順を活用する →国内ではDMAICは伝わりにくいと思うので注釈をつけてあげてはどうか。	追記 注) DMAIC：シックスシグマの問題解決サイクルのことでDefine(機会の定義)→Measure(問題の測定)→Analyze(分析)→Improve(改善)→Control(管理)の略。	△	「(Define, Measure, Analyze, Improve, Controlの略)」を追加しました。
24	23,24		5.6項で、「PDCA」を「単純化された改善の手順」として表現されていますが、「QCストーリー」とした方がよりあてはまるのではと思います。(24P6行目も同様です)	(例えばですが) 「一PDCAやシックスシグマで・・・」を「一QCストーリー(PDCA)やシックスシグマで・・・」とする、などです。	×	QCサークル活動で使用されている「QCストーリー」よりも単純化された手順という意味です。
25	24	13	原案：“問題・問題の選定”は、typoと思われる。	提案：問題・課題の選定	○	
26	24	下から4行目	「事実・データに基づいて検討を行い、・・・」とありますが、どのように検討するののかも必要と思います。	(例えばですが)「事実・データに基づいて、QC7つ道具などを活用して検討を行い、・・・」とする、などです。*全体を通してですが、「QCストーリー」や「QC7つ道具」というキーワードは、もっと多用したほうがよいのではと感じています。	×	チーム改善活動の場合、QCサークル活動でよく用いられる「QCストーリー」や「QC7つ道具」に拘泥するのは必ずしも適切でないと考えます。
27	29	17	検索のための層別には、問題・課題の種類別、QCDSME別、活用した手法別、チーム運営の特徴別、階層・部門・職能別などがある →QCDSMEのQCDはすでに一般的であるが、SMEについて一般的にはなりきっておらずまだ補足説明が必要であると感じる	追記 注) QCDSMEのSME S(Safty 安全)、M(Morale モラル)、E(Environment 環境)	△	「(Quality, Cost, Delivery, Safety, Morale, Environmentの略)」を追加しました。
28			立派な指針をつくられたことに敬意を表します。次の点に考慮を払っていただければ幸いです。すなわち、QCサークル活動は自主活動ということで、通常勤務終了後の活動には残業代を支払っていない会社がありました。平成19年11月に名古屋地裁はこれを業務と判断しています。サークル活動を導入する際にはこの点を明確にしておくことが必要かと思えます。		△	QCサークル活動＝組織活動ですので、対価を支払うのは当然と考えます。6.7.4の最後に、管理者に対する教育の一つとして追記しました。
29	34	12	対象者は職場の第一線で働く人というのは、用語の定義3.3に書かれているが、6章で3.3の定義に触れられていない。	6章のQCサークルの説明で、用語の定義3.3を参照する。また、他に同じことが繰り返し書かれている箇所があるので、前出を参照する形にする。	△	6.4の第2段落の最初に「同じ職場の人同士でQCサークルを編成するというのが基本的な考え方である。」を追記しました。
30	37	6	原案：“電子メール”は、typoと思われる。	提案：電子メール	○	

31	38	図8	本図は、(社)日本品質管理学会 管理・間接職場における小集団改善活動研究会編『開発・営業・スタッフの小集団プロセス改善活動』(日科技連出版社刊)の図3.7.2(p.119)と極似しております。本書の編者は日本品質管理学会ではございますが、本3.7.2図を元に作成されたのではないかと思いますので、「～をもとに作成」と、出典を明記された方が良いかと思います。		○	
32	40	図9	1)出典の単行本の書名は二重カギカッコの『 』で囲っていただいていた方が良いかと思 います。 2)「日科技連出版」は「日科技連出版社」のミスプリと思われます。		○	
33	41	19	原案:“図1(改行)0”は、typoと思われる。	提案:図(改行)10または(改行)図10	△	印刷版では図番号の途中で改行されることのないようにしたいと思います。
34	45	29	原案:“表10”は、typoと思われる。表9が存在していないため。	提案:表9	○	
35	46	15	原案:“表10”は、typoと思われる。表9が存在していないため。	提案:表9	○	
36	46	表10	QCサークル活動の評価尺度の例を挙げていただいております、とてもわかりやすいと思 います。 例ということですので、すべてに当てはまることを列挙することは、主旨には合わないと思 いますが、「社会貢献」のことについて、成果の事例として環境側面の事項の他の事例も あると良いと思いました。コーポレートイメージや企業ブランドの認知度といったような企業 イメージの向上につながるような事項があれば、QCサークル活動の成果が組織の事業に 対する貢献ということの認識が得られやすいのではないかと思います。	コーポレートイメージや企業ブランドの認知度 といったような企業イメージの向上につながるよ うな事項があれば、QCサークル活動の成果が 組織の事業に対する貢献ということの認識が得 られやすいのではないかと思います。	×	「ブランドの認知度」は数値として測れる指標の一つですが、広告等に大きく影響されます。QCサークル活動とより直接的に関係する尺度として「顧客満足度」を取りあげています。
37	46	表10	社会貢献の行、プロセスの列にある「向上周辺の美化活動」は、単なる誤記と思う	工場周辺の美化活動	○	「組織の周辺」に修正しました。
38	46		表10の1行目に、「成果(結果)」と「プロセス(過程の努力)」の2つがありますが、活動の目 的、趣旨からも、この2つの左右を入れ替えたほうがよいと思います。	表10の左右を入れ替えることを提案します。さ らに、「成果(結果)」は「活動の結果としての成 果」に変更することを提案します。	△	左右を入れ替えました。「成果(結果)」は、「プロセス(過程の努力)」との対比を考え、「成果(努力によって得られた結果)」としました。
39	47	最後の行	p.29の「5.9.1チーム改善活動の評価と表彰・奨励」にあわせるのが良いと思いました。	チームメンバーが改善活動において果たした...のところを →チームメンバー及びその関係者が改善活動において果たしたと、したら良いのではないか と思いました。	○	「チームのメンバーや関係者」としました。

40	47		最下行に、「—QCサークルの努力や活動の成果を正しく評価する」とありますが、QCサークルでは成果を評価すると様々な問題が生じると思います。(努力は評価してもよいとは思いますが・・・)	(例えばですが) 「—QCサークルの努力や活動の成果に感謝の気持ちを表す」といった表現に変更することを提案します。	△	QCサークル活動＝組織活動ですので、成果を評価しないのは適切でないと考えます。「QCサークルの努力や活動の成果を正しく評価し、感謝の気持ちを表す」としました。
41	48	参考文献[5]	単行本の書名は二重カギカッコの『 』で囲っていただいた方が良いかと思ひます。		○	
42	48	参考文献[6]	単行本の書名は二重カギカッコの『 』で囲っていただいた方が良いかと思ひます。		○	
43	48	参考文献[7]	1)著者名は「(社)日本品質管理学会 管理・間接職場における小集団改善活動研究会編」のミスプリと思われまふ。 2)単行本の書名は二重カギカッコの『 』で囲っていただいた方が良いかと思ひます。 3)書名は『開発・営業・スタッフの小集団プロセス改善活動-全員参加による経営革新-』のミスプリと思われまふ。 4)「日科技連出版」は「日科技連出版社」のミスプリと思われまふ。		○	
44	48	参考文献[8]	1)単行本の書名は二重カギカッコの『 』で囲っていただいた方が良いかと思ひます。 2)「日科技連出版」は「日科技連出版社」のミスプリと思われまふ。		○	